

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①全学級で「学習スタンダード」と「問題解決」を意識した授業展開を図るとともに、スキルタイム、家庭学習等による基礎・基本の定着と授業改善による思考力、判断力、表現力の向上を目指す。②重点研究では、図画工作科、算数科の指導を通して、言語活動を充実させ、学び合いを重視し、思考力・表現力等児童の資質・能力を育む。	①学習スタンダードの確立には、まだ時間を要する状況である。スキルタイム・家庭学習等と運動させた基礎基本の定着は図れている。問題解決を意識した授業展開を更に工夫していきたい。②計画通り推進することができた。特に図画工作科は、A表現(1)造形遊びに特化し、各学年2題材を実践できた。足跡カリキュラムとして活用。	B	確かな学力	b5			確かな学力	c5		
豊かな心	①ペア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用など、心豊かな活動や環境をつくる。③自ら進んであいさつする姿を認めていく。④道徳教育や特別支援教育を充実させ、個を大切に児童理解と思いやりの心を育む。⑤幼保小連携を1、5年を中心に展開する。	①児童会活動を中心に、年間通して意識し、児童の成長を図ることができた。②学校キャラクターの活用については、かなり充実してきた。児童の心を育成する様々なしなかけを講じた。③あいさつを活性化する主だったしなかけがなかった。④特別支援では、児童理解を組織的に推進。⑤幼保小連携は研究指定を受け、成果があった。	A	豊かな心	b6			豊かな心	c6		
健やかな体	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動に「ダンス、縄跳び」を取り上げ、学校保健委員会を機能させ年間通して体力の向上を図る。③養護教諭、調理員、栄養職員と連携しながら全学級で食育に関する授業を行い、給食の残量を減少させる。	①特に、インフルエンザや感染性胃腸炎の拡大防止策を講じ、大きな成果があった。②児童会活動の体力向上への取組については、年間通した継続性や習慣化へと展開させる必要がある。③昨年度と比較すると、対策を意識して講じていることで、残量が減少した。さらに教職員間の共通理解を深める必要がある。	B	健やかな体	b7			健やかな体	c7		
安全管理	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付けて毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てる。②休み時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。	①各学年の取組はあったが、カリキュラムとしての系統立てた整理ができていない。次年度への課題とする。②休み時間の職員の動きについては、当番がないため、児童支援専任が昇降口で見守る程度であった。こども再検討する。③施設面の安全面については、確実に行った。また、今年度改善できた箇所が多々あった。	B		b1				c1		
児童指導	①これまでの「学校のきまり」を再度見直し、全教職員で共通理解して指導に当たる。②児童指導が発生した際には、担任と児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った後、保護者に丁寧に説明を行う。また、記録を残す。③職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	①学校のきまりを再確認し、共通理解を行った。②児童指導が発生した際の動きが的確にできてきており、翌日には収束するケースが大半であった。記録も専任日誌、保健室日誌、担任からの報告書と3パターンあり、記録漏れの可能性は極めて少ない。③職員会議を通して、児童理解や事案の共有を適宜行うことができた。	A		b2				c2		
保護者・地域との連携	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強め、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を図る。	①学校運営協議会を年間4回開催するだけでなく、児童の姿を見ていただきたい様々な行事の際に來校していただき、ご意見を伺った。②サポーター協議会は、例年通りの活動を行い、変化はないが、安定している。③サークル活動が刷新され、児童の活動とも運動できている。④港北みなものアートプロジェクトが実現した。	A		b3				c3		
教育環境整備	①プレハブ校舎解体と、校庭の全面改修を受け、既存の教室や校庭の活用方法について検討し、持続可能な形を構築する。(西棟2階:図書室とオーブルーム、3階:図書館とPCRルーム)②図書館の環境整備と運用を一層図る。③前期に行う体育的行事に対して、後期に文化的行事を設定するとともに、宿泊体験学習などの見直しを行う。	①今年度計画されていた、大きな施設改修をただ、安全に行うだけでなく、教育課程や学校のきまりの見直し、創意ある活動を導入して児童育成の視点で行えたことが成果であった。②図書館の整備は次年度への検討課題となった。③すみれ学習発表会の実施、日光宿泊体験学習を2泊3日にするなど成果を残すことができた。	A		b4				c4		
人材育成・組織運営	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが中心となって月1回の活動を継続して行う。②週1回の教務会において、事務連絡だけでなく、学校経営改善の視点でいつでも話し合えるように各自が課題意識を高くもって臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全体で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした、学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に向け検討を行う。	A	人材育成・組織運営	b12			人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き	1中4小のブロックで、それぞれの学校の個性を大切にしながら、育てたい子ども像を共有するとともに、児童生徒指導の安定と学習指導の充実を図ってきた。研修会では、ユニバーサルデザインを軸に置いた研究成果の吸い上げを図った。また「学習指導要領改訂とこれからの授業づくり」について講演をいただき、能動的に学ぶ授業(アクティブ・ラーニング)について、校種を超えて共通理解を深めた。9年間で身に付けさせたい力について、具体的に検討し、9年間の入り口(スタートカリキュラム)と出口について理解を深め、あいさつの現状について共通理解することができた。			ブロック内相互評価後の気付き				ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	昨年の40周年の学校全体の大きな盛り上がりから、今年41年の年は持続可能な学校経営の形を模索していくとの趣旨があったが、まずは、大きな改修工事等、児童の育成も踏まえて、きちんとやり遂げたことは成果であった。また、学校全体に豊かな雰囲気があり、校長のビジョンが浸透してきていると評価できる。学校が、戦略的に計画を立案し、実施、自己評価を行い、改善策を練るという一連の学校評価の形ができている。課題となっている側面については、学校だけで取り組むのではなく、外部人材等生かしていけるとよいのではないかと。例えば、すみれが丘小のひとつの特色であるサークル活動のメンバーによる協力体制を構築するなどである。			学校関係者評価				学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	児童がすすんで取り組み、みんなで解決し、れいをつくって人間関係を築くことのできる学校づくりを進めるという、スローガンを掲げ、今年度はそこに「がんばり続ける」という要素も加えた。この定着に関しては、まず意識はかなり高くなってきているという自己評価になった。次年度に向けては、具体的指導場面や、子どもの姿でとらえ、成果を何らかのデータでとらえることができるようにする。5つの視点については、全て具体的取組目標として内容に落とし込んでいるので、着実に推進し、反省し、改善を図るというサイクルを回していきたい。			学校経営中期取組目標振り返り				学校経営中期取組目標振り返り			